

池武当インターチェンジ・ 周辺道路の整備について

事業内容の説明動画

 沖縄県 中部土木事務所
道路街路課

1 池武当ICの経緯・位置

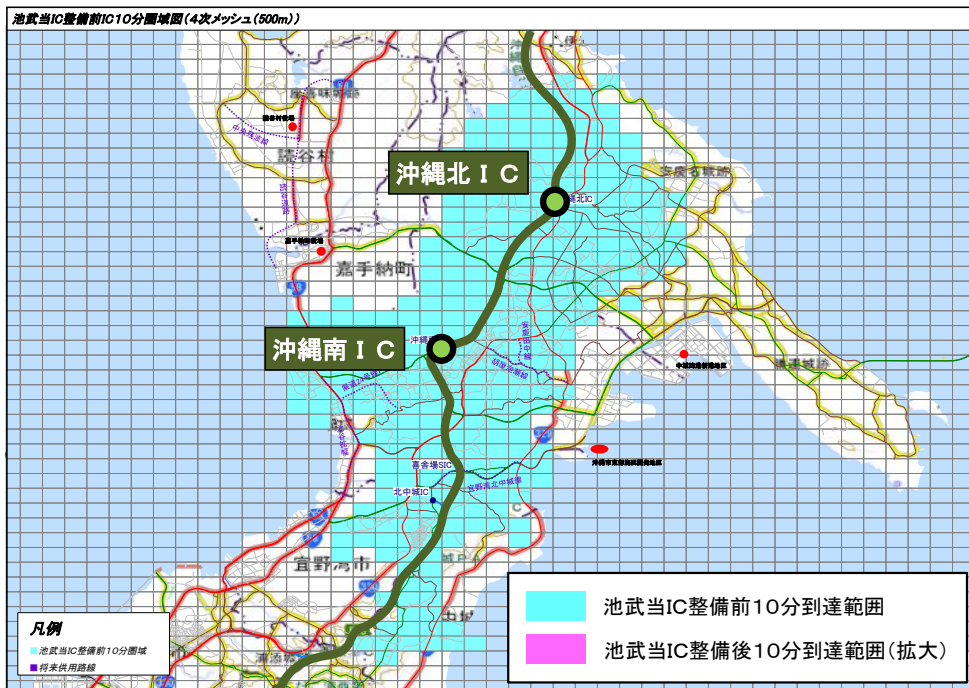
- ・ 池武当ICは沖縄南ICと沖縄北ICの中間部に計画
- ・ 沖縄市において検討、その後に沖縄県において検討、概ねの計画がまとまる



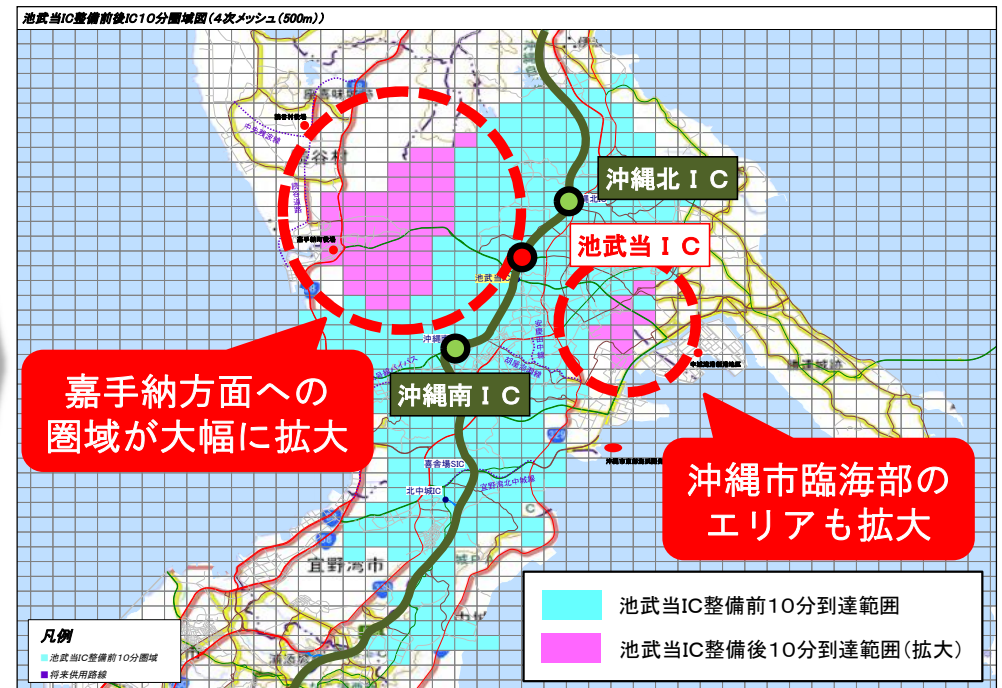
2-1 池武当ICの必要性(アクセス向上)

- ・ 池武当ICの整備により、沖縄自動車道まで10分以内で到達できる範囲が拡大する
- ・ 嘉手納町、読谷村から10分以内で到達できる範囲が拡大
- ・ 沖縄市臨海部から10分以内で到達できる範囲が拡大

<現状>



<池武当IC整備後>

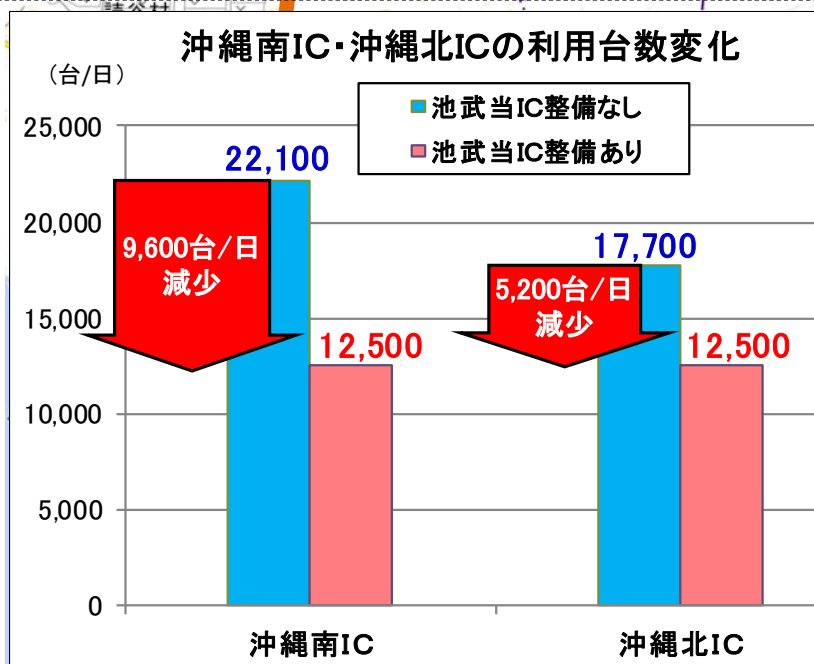


出典：平成22年度道路交通センサス

混雑時平均旅行速度

2-2 池武当ICの必要性(渋滞緩和)

- ・ 沖縄北IC、沖縄南ICはピーク時に渋滞が慢性化している
- ・ 池武当ICの整備により、沖縄南ICで約9,600台/日、沖縄北ICで約5,200台/日の交通量が減少し、両ICの交通渋滞が大きく緩和する



渋滞状況

渋滞状況



沖縄南IC(出入口)



沖縄北IC(出入口)

2-3 池武当ICの必要性(地域活性化・産業ゾーンの支援)

- ・ 池武当ICが位置する知花地区は都市計画における準工業地域になっており、沖縄市が産業・雇用基盤としての活用を検討中
- ・ 池武当ICの整備に伴い、企業の物流や従業員等の交通利便性、那覇空港とのアクセスが向上し、企業誘致促進や国際物流特区指定に向けた取り組みが図られる

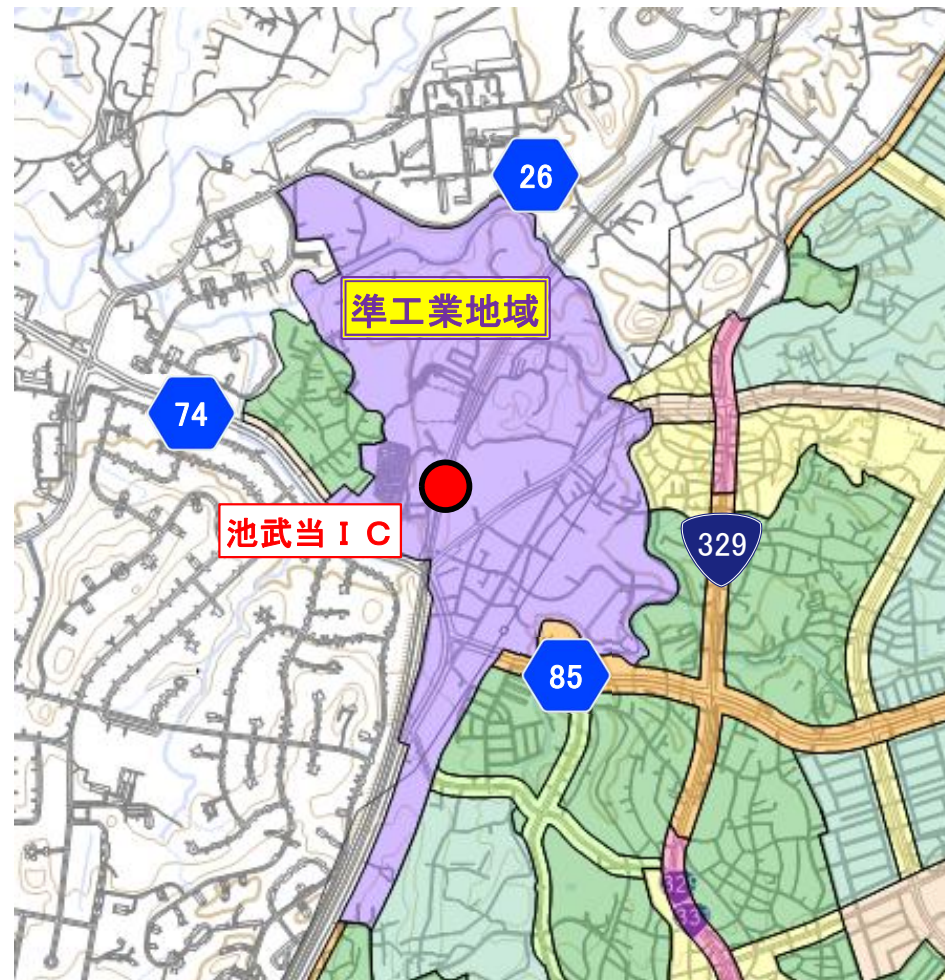


図 都市計画図（池武当周辺を抜粋）

2-4 池武当ICの必要性(救急医療・緊急活動の支援)

- ・ 中部、北部管内の救命救急医療機関（第三次救急医療機関）で沖縄県立中部病院が唯一指定されている
- ・ 池武当ICが整備されると、沖縄自動車道から沖縄県立中部病院までの経路の大部分が第一次緊急輸送道路となり、中部病院までの到達時間が約4分短縮される

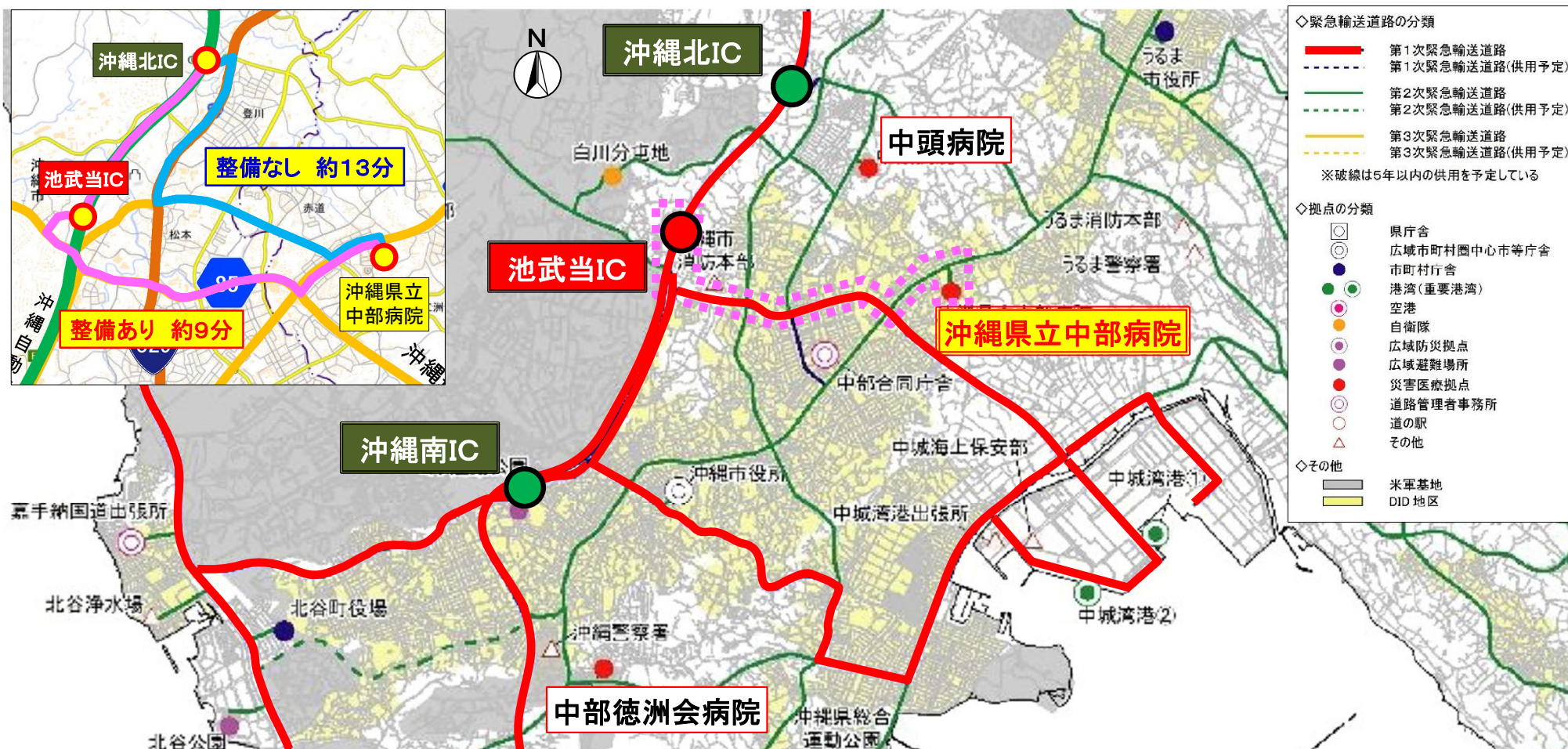


図 緊急輸送道路ネットワーク計画図 (池武当周辺を抜粋)

3-1 池武当ICの設置箇所決定経緯(候補範囲)

- ・ 東西方向を貫く交通上重要な4車線道路である、沖縄嘉手納線（県道74号線）～沖縄環状線（県道85号線）に接続させると交通上最も効果がある
- ・ 池武当ICは中城湾港新港地区の物流も担う

